

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が集まる、月1回の定例会議の前に復唱し職員で共有している。	事業所独自の理念を作成しており、玄関・リビングに理念を掲示し、理念の実践ができるよう毎月の定例会議時に理念を復唱するようにしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流として、春に茶話会を継続して行っている。地域新聞を年3回発行している。地区内の保育園、小学校との交流・毎月傾聴ボランティアとの交流を持っている。	地域にも広報誌を定期的に回覧し、情報を発信しています。また、事業所の茶話会には地域の方にも参加してもらったり、保育園児に来てもらったり、地域の敬老会やさいの神にも参加するなど、地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の環境整備に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、地域代表、家族代表の方々に参加いただき、GHホール内にて、ご入居者様の様子を見ながら活動報告やご意見等話合っている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、区長やご家族代表、民生委員や市の担当者から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご家族からの相談や困難な問題が生じた場合は、市の高齢福祉課、または包括職員に相談し助言をいただいている。	市の担当者には運営推進会議にも参加していただいております。アドバイス頂いているほか、困難事例の相談や不明な点について連絡を取り連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修・内部研修を行い、全ての職員が身体拘束について正しく理解し拘束をしない取組を心がけている。	玄関の施錠も夜間のみとするなど、身体拘束を行わない方針が徹底されており、身体拘束に関する内部研修も行き、身体拘束をしないケアを実践しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、内部研修を計画して日々の業務の中で意識を高めている。	虐待防止については外部研修に参加し、職員会議で周知徹底しており、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護に関する制度を利用している方は居ないが、職員の入れ替えがあり、研修を通して学ぶ機会を持ち資質向上を目指していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に契約書類、重要事項を確認していただき、契約時にも説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エレベーターホールに意見箱を設置したり、面会時にホームでの様子をお伝えし、ご家族からの意見や要望を聞く。課題が出た場合は担当者会議・定例会議等で検討している。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、ご家族アンケートを行ったり、事業所の運動会や茶話会にはご家族にも参加していただき、ご家族との交流を図り意見が出易くされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会議に施設長から参加いただき、職員の意見や要望があった場合確認できる。また、検討の必要がある場合は、翌月の定例会にて確認を行っている。	毎月の職員会議の場で職員の意見や要望を確認しており、職員へ研修内容のアンケートも実施しています。また、個人面談も年に2回実施し、職員からの意見を吸い上げられるようにされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から話し合いの場・時間を持ち意見や要望を聞くよう心掛けている。必要に応じて上に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務調整を行い、外部の研修に参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか、他事業所との交流を持つ機会がない。実践者外部研修を受け入れ、意見交換等おこない、サービスの向上に約立っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人家族の困って居る事は不安、要望等十分聞かせて頂き、普段の生活の中からコミュニケーションを図りながら安心して生活が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いに耳を傾け、不安を解消できるようなサービスを提供することで安心していただける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを活用し、本人・家族の意向、家族状況を考慮し、必要としている支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の味見をしてもらったり、雑巾を手早くきれいに縫う方法を教えて頂きながら入居者の方から生活の中で入居者の方から学ぶようにしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた時に、近況などをお伝えすると共に、ご本人一緒にお茶を飲みゆっくり過ごして頂けるようにしている。	ご家族に事業所広報を毎月送付しているほか、状態の変化があった場合はお手紙も作成して送付しており、日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、受診・外出の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	個別のお手紙の送付に関しては必要時だけでなく、居室担当職員より定期的に送付されるように検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人、友人にご近所との付き合いが全く途切れてしまうことのないように、面会時に積極的に話しかけている。	ご家族にもご協力して頂き、定期的に面会に来ていただいたり、法事に参加したり、馴染みの美容室へ出かけたり、自宅への外泊やお墓参りに出かけたりと今までの関係継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビング内の席替えをすることで、入居者間の交流を支援している。入居者が孤立しないように、職員が間に入り話しかけをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係を大切にするために、契約が終了した後もいつでも相談があった場合そうだんを受けれる体制になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で情報や行動を見逃さず、困って居る事など把握し本人に合ったケアが出来るように努めている。また、ミニカンファレンスで検討し家族の理解を得る場合もある。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員間で共有され、ケアプランの検討に活かされています。	調査時点で、介護計画作成の際のご家族からの意向の確認がどのようにされているかが分かりませんでしたので、今後記録に残されることを期待します。
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面接を行い、本人・家族から生活歴を伺い、入居後も本人・家族との面談等で情報を得ている。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。6ヶ月に1度は、居室担当職員が定期的にアセスメントシートを見直しています。	調査時点でアセスメントシートの作成が遅れている方もおりましたので、今後改善されることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態を観察し、本人の出来事を見つけその人に合った自立した支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望を聞き、個々の課題やケアについては、月1回の定例会議で検討を行っている。介護職員から出た意見等を反映した介護計画の作成に努めている。	サービス担当者会議にはご家族にも参加して頂き、モニタリングも3ヶ月に1度居室担当職員が行うなど、それぞれの意見を取りまとめケアプランを作成しています。	調査時点でケアプランの作成が遅れていたり、モニタリングが不定期に行われているご利用者もいましたので、今後改善されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録にケアプランチェックを行ったり、月ごとに経過記録をまとめることで、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1ユニット単体で事業を行っていたが、共用型デイサービスを共有のスペースで開始して2年が経過した。日々の入居者・利用者間の交流が持っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	エレベーターホールに意見箱を設置したり、面会時にホームでの様子をお伝えし、ご家族からの意見や要望を聞く。課題が出た場合は担当者会議・定例会議等で検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に際し、ご本人ご家族に不安感を与えないように配慮している。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、事業所にも往診に来ていただいています。必要に応じ事業所から情報提供を行い、医師との状況の確認が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員配置に看護職を配置している。看護職・介護職、お互い協力し合い早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院関係者から情報交換しながらご家族の希望に沿え、またご本人が安心して過ごせるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まずは、ご家族の意向を大切に不安感・不信感を抱かないように事業所で出来る事を説明している。また、主治医の協力を得て終末期に向けた支援を行っている。	契約段階でご家族の意向を確認しており、ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え支援していきたいと考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内で行う救急法の研修に参加している。内部研修にて事故発生時の研修を取り入れていく。	消防署職員より来ていただき、普通救命講習を受けており、必要時には看護師からも指導を受ける等、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度も、夜間想定での避難訓練を実施した。入居者参加の消火栓・消火器操作も実施した。地域の河川敷整備作業に参加した。	夜間の火災を想定した避難訓練を定期的に行っており、ご利用者別の避難誘導の方法も検討する等、災害時に適切な対応ができるようにされています。	調査時点で非常用の食品の期限が切れていたり、非常用食品の所在を職員が理解していないところもありましたので、今後定期的に確認されることを期待します。また、避難訓練には地域の方にも参加して頂き、災害時に必要な協力体制を構築されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけや、排泄介助などプライバシーに関することについて、他の方に気づかれないよう声掛けしている。記録についても保管場所を定め保管している。	ご利用者への言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご利用者の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報やホームページへの写真の掲載についても、契約時に確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者とコミュニケーションを図り、ご本人の思いや希望を受け入れ、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、本人のやりたいことを聞き自由に過ごせるよう支援している。また、お願いしたいことについては、ご本人に確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴後は本人が出来るだけ服を選ぶよう支援している。季節に合った服が着られるよう衣替えも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の盛り付けを手伝っていただき、行事食も取り入れている。一人一人の好みを聞き対応している。	ご利用者のできる範囲で調理や後片付けも行ってもらっています。また、事業所の畑でもトマトやなすなどの野菜をつくっており、収穫はご利用者の楽しみとなっています。ご利用者と一緒に外食に出かけたり、おはぎ作りを行うこともありました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態を見て、食事形態を変えたり、水分が取りやすいように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け介助にて口腔ケアを行っている。月2回歯科衛生士による口腔指導を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ交換は時間ではなく個人に合わせて行っている。 食事の前後など、トイレの声掛けをし気持ちよく過ごして頂けるよう支援している。	必要なご利用者には排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。トイレも各居室にあり、職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	畑の野菜を利用し繊維の多い物を取り入れるようにしている。水分を多くとって頂けるよう声掛けしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前・午後に入浴の時間を設けてあり個々に合わせて時間に入って頂いている。	入浴を嫌がるご利用者にもうまくタイミングを見計らい、入浴していただけるようにしています。また、ホームの浴室での入浴が難しい方には、隣のデイサービスの特殊浴槽での入浴支援も行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室だけでなく、ホールの和室等で休んでもいただけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者のケースに処方箋を添付し、直ぐに確認できるようにしている。 薬が変更になった場合は、細かく記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作業や料理、縫い物など、生活面での作業を多く取り入れている。外の散歩や車でドライブなども毎月取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や、地域などに出かけている。	ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけたり、散歩に出かけたりもしています。また季節に合わせたお花見や菜の花見学、蓮見学やぶどう狩りなどのイベントとしての外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る人は、自己管理し、外食や薬・床屋代金等の支払いを行っている。家族が遠方で要望がある方は事業所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を使えるようにしている。また、電話がかかってきた場合取り次いでいる。手紙を出せるよう支援しているが、手紙を書く行動が見られなくなってきた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃を行い清潔感を損なわない様に配慮している。また、思い出の写真や庭に咲いた花々を飾り季節感を取り入れ心地よく過ごせるよう工夫している。。	リビングは広々として開放感があり、和室もあり、ソファも置かれてあり、ご利用者がゆったりとテレビを見ながら過ごせるスペースとなっています。ホームに飾られている写真や装飾品も季節に合わせてあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビや雑誌など利用者が自分で使えるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や家具を置くことで安心感を得られるよう配慮している。また、写真を貼り、楽しい思い出を実感してもらうよう工夫している。	居室には、ベッドやテレビ、机やタンスなどの使い慣れた物を自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、好きな俳優のポスターを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態に合わせて環境を整え、自立した生活が出来るよう工夫している。		